

講義名	対)卒業研究		
講義コード	44418	授業形態	
担当教員	長田 貴仁	備考	
開講期・曜日・時限	通年 木曜日 4時限		

学部・学科	演習分野
全学科	現代ビジネス事情と実践経営学

概要説明

人はイメージに左右され易い動物である。イメージと事実は密接に関係しており、往々にしてイメージと事実が交じり合った像が形成されていく。表面的に見える事実と水面下にある実態・実存としての事実（真理）が異なることは日常茶飯事である。政治的、企業価値的、人間関係的、人生然りである。事実の関係性は情報の質とその捉え方により、イメージと事実の関係性はほとんど変換して行く。新聞、雑誌、ラジオ、テレビといったマスコミ（既存メディア）に加えて、近年、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の急速な普及と多様化により、事実の形成がより複雑になってきた。それだけに洞察力がより一層求められるようになっている。本クラスでは、受講生自身のキャリア・デザインに資する事実を卒業論文のテーマにし、ケース・ライティング（事例執筆）に重きを置いたケース・スタディ（事例研究）を行う。卒業論文執筆という活動を通じて、洞察力を徹底的に磨きながら、自分の人生を論理的に考えることができるようになるだろう。

主な卒業論文のタイトル

他大学で卒業論文を指導したことはあるが、2020年4月に就任した本学では、卒業研究をまだ担当していないので、明示できる卒業論文のタイトルはなし。

教員よりの要望

1. 毎日、「日本経済新聞」（電子版も可）を読むこと。「日経ビジネス」、「東洋経済」、「ダイヤモンド」、「エコノミスト」などのビジネス週刊誌も定期的に目を通しておき、常に「情報武装」しておくことが望ましい。
2. テーマを決め、それに関する記事をスクラップブックに貼り（デジタル処理してもいい）、熟読し関連情報を調べること。

選考方法

「ネアカ のびのび へこたれず」の精神を体現できる人。または、体現できるよう努める前向きな人。具体例としては、挨拶ができるなど基本的な愛嬌があり、人に元気を与え、障害も乗り越えようと努力する人。情報収集に興味があり、実行している、または、実行したい人。プレゼン能力、ディスカッション能力、会話能力が高い、または、高めたい人。安易に欠席しない人。単位を落とさない人。当然のことながら、卒業論文執筆に意欲的に取り組める人。そのためには、就活などとのバランスを考え、時間管理を工夫する生活習慣、行動が求められる。卒業論文執筆を途中で放棄しない人。

以上、 - に当てはまるか否かを選考基準として、ゼミ入門の可否を判断する。

評価方法

卒業論文60%、講義時に求める提出物およびプレゼン、発言60%。
 ゼミは、現代ビジネス社会の評価基準である「信賞必罰」を適用する。
 「現代ビジネスの基本」は契約である。履修登録した段階で、以下の契約内容に同意したことになる。良い結果を出した人は高く評価する。本講義開始後に守らない場合は、「契約違反」として処する。
 1. 「ネアカ のびのび へこたれず」の精神を体現し、組織（クラス）のモチベーションを高める前向きな姿勢を見せた人は努力点として加点する。
 2. 他の科目と同様、出席は当たり前。無断欠席は大幅減点。欠席する場合は証明書類（例：公欠届、医師の診断書が病院の領収書写し、など）を提出せよ。
 3. 前向きな姿勢を見せ、発言、行動し、良い結果を出さなければ出席している意味がない。居眠り、私語など、組織（クラス）を落とす迷惑行為、業務（授業）を妨害する行動、発言については、始末書提出を求める場合がある。その結果として、大幅減点になることを認識し「大人としての行動」を心掛けて欲しい。

教員英字氏名	研究室
Osada Takahito	研究棟 218

最終学歴
 博士（神戸大学）、修士（早稲田大学大学院社会科学部研究科）

学位
 博士（経営学）

主な研究活動・社会活動・研究業績

以下、著書、論文の他、主要ビジネス系メディア（近年はオンライン系も含む）に論説を発信している。

- 『ビジネス・ケース・ライティングの方法論的研究』中央経済社（発行：碩学舎）、2022年3月
- 『ゼロム その経営の真髄』ダイヤモンド社、2012年7月
- 『経営は言葉である』光文社、2010年2月
- 『増補新版 パナソニック ウェイ』プレジデント社、2008年12月
- 『社長の奮打ち』光文社、2007年10月
- 『ソニー 復活の経営学』東洋経済新報社、2006年7月（台湾で翻訳出版）
- 『The Panasonic Way 松下電器「再生」の論理』プレジデント社、2006年2月
- 『シャープの謎』プレジデント社、2004年6月
- 『田中耕一の「自分を活かす」術』講談社、2003年3月（韓国で翻訳出版）
- 『変わる松下 生まれ変わった日産』光文社、2002年8月
- 『SANYO 井植敏の「馬上行動」組織革命』講談社、2002年8月
- 『ベンチャースピリットの研究 ケーススタディ 三洋電機』NTT出版、2002年1月
- 『カルロス・ゴーン 人を動かす技術』日本文芸社、2001年12月
- 『松下がソニーを超える日』サンマーク出版、2001年9月（韓国で翻訳出版）

（共著）
 『ゼロム』（久野康成氏他と共著）出版文化社、2017年9月、pp.7-34,59-110,111-134,135-144,145-176
 『企業家学のすすめ』（加護野忠男氏他と共著）有斐閣、2014年7月、pp.90-104

趣味・特技

趣味：評論、情報収集（専門分野に限らず、エンターテインメントに至るまで）。
 特技：インタビュー、記事・エッセイ執筆、知的雑談。

所属

流通科学大学商学部経営学科

所属学会

- 組織学会
- 日本経営学会
- 経営史学会
- 日本ベンチャー学会
- 企業家研究フォーラム
- 日本マーケティング学会
- 経営科学行動学会

専門分野

経営者論、経営戦略、マーケティング戦略、経営管理、ビジネス・ジャーナリズム。

担当科目

特別講義（プロデュース論）、経営管理論A、経営管理論B、戦略的マーケティング論、専門基礎演習、研究演習、事例演習（大学院）。

備考

ビジネス誌の編集部を経て、2005年4月、神戸大学大学院経営学研究科助（准）教授に就任したのを皮切りに大学の世界に入りました。その後、複数の大学、大学院で一般学生だけでなく、社会人も教えてきました。その中には、現役社長も数名いらっしゃいました。これまで「ニュース・クイズの他、世界各所で多くの企業エグゼクティブを取材してきました。経営学とビジネス・ジャーナリズムを統合した視座から論考したオピニオンを、学界（学会）に留まらず広く社会に向けて、分かり易い言葉で発信し続けています。ジャーナリズムを知る経営学者、経営学を知るジャーナリストです。現在も、新聞、ビジネス誌などを中心に、執筆し、コメントを発信しています。私の最大の特徴は、実際に戦後の日本経済の成長を支えた日本を代表する経営者たちと実際に対話してきたことです。そこから得た知見を生かし、「生きた経営学」を教授したいと考えています。

実務経験の有無及び活活

実務経験あり。著名経営者やビジネスマン、技術者にインタビュー、執筆、編集した経験をもとに、現代ビジネスの実態について言及し、経営学とジャーナリズムの観点から理論的・実践的知識を教授する。